

令和5年度第1回教育振興審議会 会議録

1. 開催日時

令和5年8月7日（月） 午前9時30分～11時40分

2. 開催場所

石鳥谷総合支所 3階 大会議室

3. 出席者

(1) 委員 12名

富士大学 経済学部教授 藤原 忠雄

岩手県立花巻北高等学校 校長 須川 和紀

花巻市教育振興運動推進協議会 会長 高橋 博明

花巻市校長会（大迫小学校 校長）晴山 光弘

花巻市校長会（東和中学校 校長）岩角 聖孝

花巻私立幼稚園・認定こども園協議会（花巻市私立幼稚園協議会）会長 照井 義彦

(一財)花巻市体育協会 会長 佐藤 睦朗

(公社)花巻青年会議所 理事長 佐藤 貴哉

花巻市法人立保育所協議会 会長 打田 修子

わかば学童クラブ 主任支援員 坂本 知彌

公募委員 鎌田 愛子

公募委員 牛崎 恵理子

(2) 事務局 17名

教育長 佐藤 勝

教育部長 菅野 圭

教育部教育企画課長 及川 盛敬

教育部学務管理課長 高橋 晃一

教育部学校教育課長 及川 仁

教育部こども課長 大川 尚子

教育部文化財課長補佐 伊藤 真紀子

花巻市博物館副館長 佐藤 恒

生涯学習部長 市川 清志  
生涯学習部生涯学習課長 梅原 奈美  
生涯学習部賢治まちづくり課長補佐 八重樫 靖  
生涯学習部スポーツ振興課長 菅原 一憲  
生涯学習部花巻図書副館長 高橋 宏和  
市民生活部市民生活総合相談センター所長 坊澤 尚行  
教育部教育企画課長補佐 畠山 英俊  
教育部教育企画課総務企画係長 瀬川 千香子  
教育部教育企画課主任 荒木田 美月

#### 4. 議事及び報告事項

- (1) 会長・副会長選出
- (2) 報告事項1 令和5年度花巻市内小中学校児童生徒数の推移と今後の見通し
- (3) 報告事項2 全国学力学習状況調査・岩手県学習定着度状況調査の結果
- (4) 報告事項3 令和4年度花巻市内問題行動等概要
- (5) 報告事項4 令和4年度不登校児童生徒の実態
- (6) 報告事項5 令和4年度体力・運動能力調査結果
- (7) 報告事項6 市内保育園・幼稚園・認定こども園等入園状況
- (8) 審議1 第3期花巻市教育振興基本計画実施計画令和4年度主要事業の実施状況について
- (9) 審議2 第3期花巻市教育振興基本計画実施計画（令和5年度）（案）について

#### 5. 議事録

（及川教育企画課長）

それでは、只今から令和5年度第1回花巻市教育振興審議会を開催いたします。花巻市教育長 佐藤勝がご挨拶申し上げます。

（佐藤教育長）

おはようございます。本日、委員の皆様には大変朝早い時間から、またご多用のところ暑い中ご出席いただきましてありがとうございます。

今、辞令を交付させていただきましたが、本年度も継続してお願いする委員の皆様、そして新たにご就任くださいました皆様には、よろしくご指導を賜りたいと思います。よろしくお願いいたします。

さて、教育委員会は、花巻市のまちづくり総合計画長期ビジョンの中で、人づくりを担当しておりますが、この基本となるのが教育振興基本計画で、現在、令和7年度までを計画期間としている第3期の計画期間中ではありますが、毎年評価をいただきながら指標を説明し、事業を進めております。そして、法の定めるところにより点検・評価を行い、その結果を議会に提出して公表することが義務づけられております。この点検・評価の調査・審議をお願いするのが当審議会でございます。

そこで本日は、第3期花巻市教育振興基本計画令和4年度主要事業の実施状況について、それから、第3期花巻市教育振興基本計画令和5年度（案）についてご審議いただき、ご意見を頂戴したいと思います。

昨年度はまだコロナウイルスの第8波ということで、計画や事業について様々な制約がございました。それが事業結果となっている部分もございますが、今年5月の5類への移行で、ほぼ以前のような状況で実施することが可能となりました。もちろん、3年間の空白があり、実施に際しては従前に戻すのではなくて、工夫も必要と考えておりますし、実施上様々な課題が生じているところも正直なところであります。そしてまた、ポストコロナということで、単に従前の事業に戻すのではなくて、この3年間の変化等も含めながら、改善も必要だと考えております。

内容は極めて広範でございますが、委員の皆様の様々なご専門の見地から忌憚のないご意見を賜り、ぜひ改善を図ってまいりたいと思いますので、ご意見、ご質問等いただきながら進めていければと思います。よろしくお願いいたします。

（及川教育企画課長）

次第3、委員紹介でございます。委員名簿の順に出席委員の皆様を紹介させていただきます。

富士大学経済学部教授、藤原忠雄様。岩手県立花巻北高等学校校長、須川和紀様。花巻市教育振興運動推進協議会会長、高橋博明様。花巻市校長会 大迫小学校校長、晴山光弘様。花巻市校長会 東和中学校校長、岩角聖孝様。花巻市PTA連合会副会長、杉本博紀様は、本日ご欠席でございます。花巻私立幼稚園・認定こども園協議会会長、照井義彦様。一般財団法人花巻市体育協会会長、佐藤睦朗様。公益社団法人花巻青年会議所理事長、佐藤貴哉様。花巻市法人立保育所協議会会長、打田修子様。わかば学童クラブ主任支援員、

坂本知彌様。花巻幼稚園つくしの会会長、淵澤皓英様は、本日もご欠席でございます。社会福祉法人光林会理事長、三井信義様は、本日もご欠席でございます。公募委員、鎌田愛子様。公募委員、牛崎恵理子様。

なお、本日、杉本博紀委員、淵澤皓英委員、三井信義委員より、ご都合により欠席されるとご連絡をいただいております。

続きまして、次第4、会長・副会長選出でございます。花巻市教育審議会条例第4条の規定では、「審議会に会長及び副会長1名を置き、委員の互選により定める。」とございます。皆様がもしよろしければ、富士大学教授の藤原委員に会長を、花巻北高等学校長の須川委員に副会長をお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

(及川教育企画課長)

「異議なし」ということですので、会長を藤原忠雄委員、副会長を須川和紀委員にそれぞれお願いしたいと思います。拍手をもって承認いただければと思います。

(拍手)

(及川教育企画課長)

ありがとうございました。

続きまして、次第5、報告事項でございます。まず、資料No.1「令和5年度花巻市内小中学校の生徒数の推移と今後の見通し」について、高橋学務管理課長より説明いたします。

(高橋学務管理課長)

資料No.1の1ページ目は小学校の状況、2ページ目は中学校の状況、3ページ目は、小中学校全体の状況となっております。平成18年1月の合併以降、令和5年度まで、児童生徒数は、ご覧いただいておりますとおり年々減少しているところでございます。4ページ目は、これらの人数を割合として示したものでございます。学校種ごとの人数であります。今年度は小学校が4,113名、昨年度比95名の減、中学校が2,283名、昨年度比17名の減となっております。この表の右、平成18年度合併時と比較しますと、小学校は1,597名の減、中学校は819名の減となっており、小中学校ともに当時の人数と比較して約2.8割の

減、7.2割の児童生徒数となっております。上の表は学校別でございまして、右側に示しました今年度の人数と、それぞれの学校の過去最多数を比較した割合です。若葉小学校のみが青色のセルで示しております。これは令和4年度が最多人数678名でありますので、今年度は669名、昨年度の0.1割の減、9.9割の人数となります。黄色のセルで示しておりますのは、今年度の小・中学校の令和18年度の平均7.2割を超えている学校であります。また、緑色のセルにつきましては、それぞれの学校の過去最多人数に比べ5割を切っている学校であります。最多人数の5割を切っている学校は、昨年度は小学校2校、中学校1校でありましたが、今年度は小学校3校、中学校2校となっております。児童生徒数の減少が著しい状況となっております。

最下段の左側の表であります。この17年間における年間の平均減少人数であります。あくまでも17年間での平均であります。小学校は年間93.9人、中学校は年間51.1人減少しているということになります。以上で児童生徒数の推移について説明を終わります。

(及川教育企画課長)

続きまして、資料No.2から資料No.5につきまして、及川学校教育課長より説明いたします。

(及川学校教育課長)

資料No.2をご覧ください。全国学力学習状況調査、岩手県学習定着度状況調査の結果をもとに市内児童生徒の学力について、概要をご説明申し上げます。表中平成29年度から令和4年度までの学力調査結果の推移をお示ししてございます。

令和4年度、小5、新入生、中2とあるところが、県の学力調査の結果でございます。なお、小6と中3は全国の学力調査でございます。

小学校6年生は、国語は県67、全国65.6に対して、花巻市66、算数は県62、全国63.2に対して、花巻市61、理科は県63、全国63.3に対して、花巻市61と、県・全国を下回る状況となっております。中学校3年生は、国語は県70、全国69に対して、花巻市71、数学は県49、全国51.4に対して花巻市は48、理科は県48、全国49.3に対して、花巻市47、国語を除いて全国・県を下回る状況となっております。特に中学校の数学は平成29年度から令和4年度まで全国を下回る状況で、本県も同様の傾向であります。非常に大きな課題となっております。市では学力向上アクションプランを定め、学年・学級経営の充実、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、家庭学習の抜本的改善ということで進めてございますが、なかなか成果が上がらない状況が続いております。引き続き課題だと捉えてございます。

続きまして資料No.3をご覧ください。令和4年度花巻市内問題行動等概要として、問題行動、不登校、いじめの状況を示してございます。問題行動の特徴として、昨年度は中学校でこれまでになかった家宅侵入が4件発生してございます。具体的には、4件全て未施錠であった中学校に深夜侵入したケースでございました。続きまして、粗暴行為が小学校で件数が増加しているという特徴がございまして。続きまして令和4年度花巻市内交通事故・学校事故概要でございまして、交通事故は小学校9件、中学校3件、学校事故は小学校18件、中学校が17件となっております。いじめの認知件数でございまして、昨年度は小学校216件、令和3年度比マイナス5件、中学校41件、令和3年度比マイナス10件となっております。

資料No.4は、令和4年度不登校児童生徒の実態でございまして。小学校は39名、括弧書きは全児童に占める割合で、0.93となっております。中学校は88名、全生徒に占める割合は3.82、前年度よりは若干減少しております。特に小学校の増加傾向が顕著であります。

資料No.5は、全国体力・運動能力調査結果の概要で、市の状況を全国・県と比較したものです。1ページ、小学校男子の状況ですが、実施した48項目中10項目で全国・県平均を上回っております。特にソフトボール投げは、半数以上の学年で全国・県平均を上回っております。一方、長座体前屈、20mシャトルランは半数以上の学年で全国・県平均を下回っております。2ページは、小学校女子の状況でございまして。実施した48項目中15項目で全国・県平均を上回っております。ソフトボール投げは半数以上の学年で全国・県平均を上回っておりますが、握力、長座体前屈は半数以上の学年で全国・県平均を下回っております。3ページ、中学校男子の状況ですが、実施した24項目中8項目が全国・県平均を上回っております。握力、ハンドボール投げは全ての学年で全国・県平均を上回っておりますが、反復横とび、20mシャトルラン、50m走は全ての学年で全国・県平均を下回っております。4ページは、中学校女子の状況でございまして。実施した24項目中8項目で全国・県平均を上回っております。特に握力、ソフトボール投げは全国・県平均を上回っている状況です。上体起こし、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とびは、すべての学年で全国・県平均を下回っております。簡単ではございますが、以上で説明を終わります。

(及川教育企画課長)

続きまして、資料No.6につきまして、大川子ども課長お願いします。

(大川こども課長)

令和5年5月1日現在の市内の保育園、幼稚園、認定こども園等の入園状況について報告いたします。資料No.6をご覧ください。

まず、市内の保育施設等の数についてですが、公立の小規模保育事業所はなまきポラン保育園を令和4年度末で廃止したほか、認可外の事業所内保育所が1か所、今年の4月末で閉所しましたので、5月1日時点の花巻市内の保育施設数は令和4年度の51施設から2施設減って49施設となります。入園児数につきましては、保育施設全体で令和4年度と比較して20名減の2,234名であります。内訳は、公立が令和4年度比較で15名減の390名、私立の認可施設が2名増の1,801名、認可外施設は7名減の43名となっております。次に資料の裏面、幼児教育施設についてですが、幼児教育施設の数、公立と私立合わせて17施設で、令和4年度の施設数と変更はございません。入園児数につきましては、幼児教育施設全体で、令和4年度比較で107名減の423名、公立は17名の減、私立は90名の減となっております。一番下の総合計の欄は、市内の保育施設と幼児教育施設の入所児童数の合計であり、5月1日時点で2,657名の入所となっております。令和4年5月1日の入所者は2,784名でしたので、比較すると全体で127名減っているという状況でございます。

なお、保育施設の年度当初の待機児童数について、令和5年度は石鳥谷地域で1名発生しております。簡単でございますが説明は以上です。

(及川教育企画課長)

報告は以上ですが、ご質問等ございますか。

(なし)

(及川教育企画課長)

ないようですので、続きまして、次第の審議に入ります。

花巻市教育振興審議会条例第4条第2項の規定によりまして、議長を藤原会長にお願いいたします。藤原会長よろしくお願いたします。

(藤原会長)

皆さんこんにちは。どうぞよろしくお願いたします。

先週、和歌山県御坊で全国の理科教育大会があり、70歳にもなり、年甲斐もなく研究発表をしてきたところでございます。コロナワクチンを6回接種し、万全を期して参加したわけですが、関西圏は、路面では40度を超える暑さです。さすがに屋外でマスクをしてい

る方は1人もおりませんでした。また、大会のホールあるいは新幹線でもマスクの着用率は1割でございました。それから、諸外国から観光されている方、大きなキャリーバックやリュックをもっている方で、マスクをした人は一人もおりませんでした。昨日、花巻のスーパーに行きましたが、ほぼ皆さんマスクを着用しており、ずいぶん日本の中でも違うなという印象でございます。この会場でもほとんどの方はマスクをしておられます。私も1週間ぶりにマスクを着用し、非常に息苦しいという実感でございます。

さて、本日の資料を拝見いたしました。児童生徒数の大幅な減少、驚くべき値でございます。また、学力調査については、何十年も前から、岩手県は、国語は全国平均を上回っている一方、数学はかなり下回っているという傾向があり、いまだに続いているなという感想でございます。その他教育環境整備等々について花巻市教育委員会としてご尽力いただいていることに敬意を表しながら、今日も内容が盛りだくさんでございますので、貴重なご意見が多く出ますことをご祈念申し上げまして挨拶といたします。本日もどうぞよろしく願いいたします。

それでは、審議に入ってまいります。審議1、第3期花巻市教育振興基本計画実施計画令和4年度主要事業の実施状況について、事務局から説明をお願いいたします。

(菅野教育部長)

教育部長の菅野と申します。令和4年度主要事業の実施状況ということで報告させていただきます。それでは、資料No.7、2ページをご覧ください。

1子育て環境の充実について説明させていただきます。成果指標である「子育てしやすいまちだと感じる市民の割合」は、令和元年度の現状値が64.0%、令和7年度の目標値を66.5%としております。令和4年度の実績値は51.0%と、令和3年度の54.2%に引き続き、残念ながら目標を大きく下回る数値となりました。

なお、以降は令和4年度の実績値のみお話させていただきます。要因は資料記載のとおり、昨年度も一昨年度と同様、保育料を国の徴収基準額から40%程度引き下げるなど、子育て支援施策に色々取り組んできたところですが、やはり新型コロナウイルスの影響により、外出の自粛、子育て支援施設の利用制限が続き、リフレッシュや相談の機会が限られたこと、また、記載してはございませんが、現在も続いております物価高騰の影響により、子育てに関する費用に対して保護者の負担感が大きかったことも一因ではないかと考えております。

施策別に事業を見てまいります。(1)子育て環境の充実について、①地域子育て支援センター事業では、新型コロナウイルスの影響で、講座の内容を変更するなどしながら、おお



むね計画どおり実施し、利用者同士の交流やリフレッシュに繋げることができました。また、コロナ禍における子育て支援や災害への備えをテーマに、地域子育て支援情報ネットワーク交流会を実施し、子育て支援関係機関の情報共有や自己啓発の支援を行ったところでございます。②保育力充実事業では、待機児童の解消を図るため、保育士を対象とした家賃補助などの経済的支援に取り組んだほか、市内保育施設等と連携した保育のおしごとフェアの開催や保育インターンシップ事業補助の開始、就職支援サイト「保育のおしごとナビ」の開設など、新たな保育士確保に取り組んだところでございます。

なお、先ほど子ども課から説明がありましたが、年度当初の待機児童は令和4年4月は3名、令和5年4月は1名という状況になってございます。③学童クラブ施設整備事業では、南城学童クラブについて増築整備を行い、環境の充実と待機児童の解消を図ったところでございます。

(2)家庭の教育力向上について、①家庭教育力向上事業では、子育て講演会の実施や「にこにこガイド」による情報提供を行っており、幼児に基本的な生活習慣を身に付けさせるための「家族でニコニコチャレンジ」についても継続して実施しております。②生涯学習講座開催事業は生涯学習部の事業であります。家庭教育支援講座として未就学児とその家族、小学生とその家族を対象として、子育てに関する学習機会を提供してございます。

(3)就学前教育の充実について、①はなまき保幼一体研修事業では、保育士の資質向上を図るための研修実施のほか、令和4年度に開始した保育・教育アドバイザー派遣事業では、施設の状況に合わせた指導、助言を行うことができました。また、小学校へのスムーズな接続を図るため、会議や保育・授業参観等を通じて保幼小の連携を図りました。

6ページ、2学校教育の充実では、岩手県学習定着度状況調査、全国体力・運動能力、運動習慣等調査をもとに4つの指標を掲げております。1つ目の、「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」について、令和4年度の実績値は小学生87%、中学生78%でした。3つ目の、「自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合」について、令和4年度の実績値は、小学生68%、中学生74%でした。資料の中段に記載のとおり、中学生の自己肯定感は改善傾向にありますが、小学生の自己肯定感が低い傾向にあることから、引き続き児童生徒の自己肯定感を高める指導や体験的な学習、キャリア教育の充実等に努めていく必要があると考えているところでございます。4つ目の、「児童生徒の学力の定着状況（県平均=100）」ですが、令和4年度の実績値は小学生が99%、中学生が98%でした。詳しい内容につきましては、先ほど学校教育課長が説明したとおりですが、6ページの表の下に記載のとおり、実績値が県・全国平均を下回った一因として、ゲームや

インターネットを利用する時間が長く、家庭学習の時間が短いことが考えられることから、メディアに触れる時間の適正化を図ること等により家庭学習時間を確保すること、ICTの効果的な活用等による授業の質の向上を図ることの両輪による学力向上を図ることが必要であると考えております。2つ目の指標、「運動やスポーツが好きな児童生徒の割合」について、令和4年度の実績値は小学生が91%、中学生が87%でした。体力・運動能力調査の結果についての詳細も先ほど学校教育課長が報告したとおりですが、運動が好き、やや好きと答えた児童生徒の割合は、小学校は目標値同等、中学校は目標値以上となっております。今後も体力向上実践校を指定するなどして、体力・運動能力に課題を抱える児童が多い学校に重点をおいて取り組んでいくことが望ましいと考えているところでございます。

7ページ、施策別の事業を見ますと、(1)学力の向上について、①学力向上推進事業では、学力向上支援員を配置して学力調査等の結果分析を行い、その結果に基づいて、各校の取組を支援したほか、30人を超える学級を有する学校にはなまき授業サポーター、中学サポーターを配置して、児童生徒へのきめ細かな指導を行い、一人ひとりの実態に応じた指導の充実を図りました。また、中学校におけるICT環境の活用を推進するため、ICT支援員を配置して、教員の資質向上を図りながら、タブレット端末の効果的な活用を図ったところでございます。

8ページ、(3)豊かな人間の育成について、①キャリア学習支援事業では、豊かな人間性・社会性を育むための体験活動や地域学習活動を実施したほか、学校における復興教育への取組を支援しました。④人権教育研究推進事業では、自分の大切さとともに、他人の大切さを認めることができる児童生徒の育成を図りました。また、「花巻市いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、関係機関と連携するとともに、各学校では6月の「いじめ防止を考える日」に児童会や生徒会が主体となり、いじめをなくすための取組を実践しております。

9ページ、(4)個に応じた支援体制の充実では、特別支援事業として学校不適應の児童生徒に対応するため、生徒支援や教育相談員、スクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談や適応指導を行うとともに、特別な指導・支援や医療的ケアを要する児童生徒へのきめ細かな指導を行うため、各学校にふれあい教育推進を配置し、児童生徒が豊かな学校生活を送ることができるよう、子どもの心に寄り添うことに努めたところでございます。

10ページ、(6)教育環境の充実について、①小中学校学区再編成等調査事業では、笹間第一小学校と笹間第二小学校の円滑な統合に向け準備を進め、令和5年4月1日から統合後

の笹間第一小学校がスタートしております。また、石鳥谷地区、矢沢地区において、地区内の小中学校のあり方について考えていただくため、保護者や地域住民等への情報提供を行っております。⑦学校地域協働連携事業につきましては、コミュニティ・スクールの導入を推進し、学校運営協議会設置校に地域コーディネーターを配置しました。また、学校図書館支援員を配置し、児童生徒が読書に親しみやすい環境づくりを行っております。⑧部活動適正化促進事業につきましては、中学校10校に部活動指導員を配置し、教員の生徒指導や教材研究などの時間確保を図るなど、働き方改革を進めました。

2 学校教育の充実につきましては、以上となります。3 生涯学習の推進につきましては、生涯学習部から説明いたします。

(市川生涯学習部長)

生涯学習部長の市川と申します。3 生涯学習の推進につきましてご説明させていただきます。12ページです。

成果指標は、まちづくり市民アンケート「日頃、学習活動や趣味、運動などに取り組んでいる市民の割合」であります。令和4年度の実績値は21.0%となっております。目標値には届いておりませんが、コロナウイルスの影響が大きいと捉えております。施設の利用制限があったことから、市民の日頃の生涯学習活動への取組に影響があったと考えております。年度の後半からは、施設の利用制限が解除されたことから、各種講座等の開催についても、従来状況に戻りつつあると捉えておりますし、今後は、従来状況に近づけつつ、オンラインによる講座の開催についても配慮いたしまして、生涯学習活動のきっかけを作る必要があると考えております。

(1)自主的学習の推進につきましては、施設利用制限があったために開催について影響があったところでありますが、先ほど来申しておりますが、状況は従来に戻りつつあると捉えております。まなび学園祭につきましても、規模を縮小して開催し、生涯学習活動の発表の場を提供することができたと考えております。新花巻図書館整備事業につきましては、基本計画の策定に向け各種団体や専門家などによる基本計画の試案検討会議を開催し、サービスや規模などの検討を行いました。また、建設候補地選定に向けて市民説明会、団体への説明会、高校への説明会などを開催し、意見の集約をしてきたところです。

(2)青少年健全育成の推進につきましては、成人式から名称を変えました「20歳のつどい」を開催し、従来どおり文化会館で開催するため、抗原検査キットを配布するなどコロナウイルスにも十分に気をつけて実施したところであります。

(3)国際化の推進につきましては、やはりコロナウイルスの影響で、青少年の直接の派遣や受入れができない状況でありましたが、オンラインで交流を行うなどしてきたところであり、引き続き交流を進めながら、今年度は実際に行き来ができる状況であります。

市立図書館においては、視聴覚教育ライブラリの情報提供を促進するなど貸出しや映画会なども実施してきたところではありますが、コロナウイルスの影響があり、規模を小さくしたり会場を別の場所にして実施したりするなど、工夫をしながら事業を実施してきたところあります。昨年度の事業につきましては以上でございます。

個別の自主的事业についてご説明いたします。12、13、14ページは先ほど申し上げたとおりであります。15ページ、4 スポーツの振興であります。成果指標は、まちづくり市民アンケート「日頃からスポーツに取り組んでいる市民（20歳以上）の割合」であります。49.1%でありました。令和7年度の目標値は65.0%であります。やはりスポーツにもコロナウイルスの影響があり、中止になった事業も多くあります。ただ、昨年度は感染症対策を講じるなど工夫しながらスポーツ事業を実施してきたところがございます。各種団体への補助金の交付等により、競技スポーツの全国規模の大会なども感染症に十分配慮しながら開催することができてきております。スポーツ施設の改修、整備も含め、市民がスポーツできる機会をとれるよう取り組んできたところあります。

15ページ(1)生涯スポーツの推進、①地域スポーツ推進事業、②地域スポーツ支援事業は記載のとおりであります。地域のスポーツを推進するためのスポーツ推進委員の配置、また、スポーツ団体等への補助を行っております。16ページ(2)競技スポーツの推進は、競技レベルや指導レベルの向上を図るため、大会出場者への支援、選手や指導者の養成を行ってきたものであります。17ページ(3)大規模スポーツ大会の開催、②日本スポーツマスターズ2022岩手大会開催事業では、日本スポーツマスターズ2022岩手大会が開催され、その事業を行ったということあります。③スポーツ施設環境整備事業につきましては、スポーツ施設がたくさんございますので、計画を作り維持、修繕をしております。

18ページ、5 芸術文化の振興であります。成果指標は、まちづくり市民アンケート「この1年間に芸術文化活動を行った市民の割合」、「郷土の歴史・文化に対する誇りや愛着を持つ市民の割合」であります。コロナウイルスの影響で芸術活動が自分たちでできなかった団体もございます。施設の利用制限等もあり、低い値となったと捉えております。

芸術文化活動の推進では、小学校、中学校、高校を含めて、文化会館で芸術鑑賞を実施しております。かなり評価も高く、どこの市町村でも実施しているわけではない事業であります。そのような独自の事業もコロナ対策を行いながら実施しておりますが、どうして

もすべて実施することができなかったという状況がございます。また、文化会館施設改修事業では、古くなっている文化会館の改修なども計画的に行っております。

先人の顕彰では、各記念館等において企画展を開催しております。北海道大学の総長を務めました佐藤昌介の功績を描いた偉人マンガを作成し、市内の小中学校に複数配布し、市立図書館にも配布しております。今後もふるさとの先人を紹介するなど、各記念館で先人を顕彰する機会を設け、地域の文化や歴史について市民の意識醸成を図っていきたくと考えております。

19ページ(1)芸術文化活動の推進ですが、先ほど申しましたとおり、文化会館では芸術文化推進事業、萬鉄五郎記念美術館では企画展等を開催しておりますほか、文化会館の改修事業を行っております。20ページ(2)先人の顕彰、①賢治のまちづくり推進事業、②先人顕彰事業、③宮沢賢治普及・啓発事業、④新渡戸記念館、高村光太郎記念館、萬鉄五郎記念美術館などの事業を行ってきたものでございます。

芸術文化の振興、生涯学習部分は以上であります。一部教育部からご説明いたします。  
(菅野教育部長)

(3)文化財の保護と活用、(4)民俗芸能の伝承は教育委員会で担当しておりますので、続けてご説明いたします。

成果指標については先ほど生涯学習部長が説明したとおりであります。コロナウイルスの影響が大きく、文化財等に触れる機会が少なかったということで、実績値は減少傾向にあるということがございます。事業ごとに見てまいります。22ページをご覧ください。

(3)文化財の保護と活用①文化財保護活用事業では、文化財保護のため、個人所有の文化財の修理と費用への補助を行ったほか、また、文化財保存活用地域計画の策定事業を進めております。②埋蔵文化財保護活用事業では、本丸御殿跡の内容確認調査を実施しておりました花巻城をはじめとする地域の歴史や文化への関心を高めるため、文化財セミナーや講演会、文化財センター企画展等を実施したところです。③博物館の展示活動事業ですが、特別展の花巻地域に関わるテーマに重きをおいて開催し、来場者の好評を得たところがございますが、コロナウイルスの影響により、入場者数はなかなか伸びなかったところがございます。④教育普及活動事業についても博物館で実施しておりますが、見学に来た児童生徒へのワークシートの配布や、小中学校に学芸員が出向いて行う出前授業では現物の資料に触れるという工夫について評価をいただいております。講座や体験学習については、コロナ禍により募集定員を少なくしたため、残念ながら申し込みをお断りすることもあったところがございます。

23ページ、(4)民俗芸能の伝承ですが、例年実施しております各種鑑賞会につきましては入場制限を行いました。活動発表の場ということではある程度確保できたと捉えてございます。また、昨年度に引き続き開催した小中学校での民俗芸能鑑賞会については、子どもたちの興味や関心を喚起することができたと捉えております。また、国の補助金を活用して新規鑑賞会の実施と文化財の用具等の修理補助を行い、地域に伝わる民俗芸能の伝承を支援することができました。

24ページ以降につきましては、各施設の利用状況でございます。

以上で令和4年度主要事業の実施状況についての説明を終わります。

(藤原会長)

只今事務局から説明がありました。ご質問ご意見のある方は挙手をお願いします。

それでは質問いたします。11ページ(6)教育環境の充実、⑧部活動適正化促進事業です。教員の働き方改革ということで、実技指導や大会引率を行う部活動指導員を中学校10校に27名配置したとあります。決算額から、1人当たり月平均1万円ぐらいの支出かと思われ。どのような種目に集中しているのか、あるいは、予算額に比べて決算額がだいぶ少ないので、本当はもう少し指導員がほしいけれども見つからないとか、地域や学校によって確保しづらいことがあるのかどうか。それから、生徒指導や教材研究などの時間を確保したと結んでおりますが、アンケートや客観的なデータがあるのかどうか、あるいは、県全体を見渡したときに、花巻市が充実しているのかどうか伺います。

(及川学校教育課長)

令和4年度の部活動指導員は、10校に27名配置しており、偏った部活動の種類はなく、各学校必要な部分に充てております。剣道、柔道、野球、ソフトテニス、バドミントン、卓球など各学校に設置している部活動に部活動指導員が配置されております。学校によっては、特設スキー部を設置する学校もありますので、冬季間の特設スキー部の活動、あるいは陸上部が特設で大会に出場している学校は、特設陸上部に部活動指導員を配置している学校もございます。

県全体の状況は、資料がございませんが、花巻市の状況を見ますと、毎年度とっている市内小中学校教職員の働き方改革の推進に関するアンケートの結果で、部活動が時間外勤務の要因となっていると回答した教職員の割合は、部活動指導員配置校では、若干ですが数値が減少しているデータもございますので、一定程度の効果はあると思っております。令和4年度は、部活動指導員が指導する際は、学校の教職員、顧問はつかないことを原則とする運用としておりますので、例えば練習試合等の引率も部活動指導員が行って、教員

である顧問がつかないという状況も生まれておりますので、働き方改革には一定程度の成果が出ていると思っております。

(藤原会長)

最後にお話いただいたように、顧問がつかないことが大事だと思います。指導員がいても顧問がつくのでは、結局同じことです。大変結構なことで、注目したいと思います。まだ予算がありますので、人数面で充実を一層図っていただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(鎌田委員)

11ページ⑦学校地域協働連携事業に、コミュニティ・スクール、地域コーディネーターを配置と書かれております。詳しくわからないのですが、どのような組織、内容で進められているのかお聞きします。

(及川学校教育課長)

まず、コミュニティ・スクールですが、学校運営協議会という組織を設置した学校のことをコミュニティ・スクールと呼んでございます。各小中学校では、子どもたちをこのように育てていきたいという、目指す子ども像や学校の経営目標があります。これまでは地域の方となかなか共有しないでおりましたが、目指す子ども像を、学校、保護者及び地域住民が共有して、それぞれの立場でどういったことが子どもたちのためにできるか、学校だけではなく、保護者や地域住民も子どもたちのために何ができるかを一緒に考えていただき、ともに活動をするための話し合いをする場が学校運営協議会だと捉えていただければと思います。委員のメンバーは、それぞれの学校によって異なるわけですが、PTAや教育振興運動、あるいは地域団体の代表者などが学校運営協議会に参加し、校長先生が年度初めにお示しする学校経営計画などにご意見いただくという形で活動してございます。例えば、ある中学校では、今年は子どもたちのために読書活動を活発にやろうという方針を協議会で立てて、では学校図書館の整備をしていただく方が必要だ、あるいは読み聞かせをする人が必要だとなったときに、例えば地域住民でそういったことができる人はいませんかとボランティアを募ったりします。こういった、地域と学校の調整役を担っている方が地域コーディネーターです。各学校運営協議会に1名ずつ配置している状況でございます。

具体的には、民俗芸能を小学校の運動会で発表したいが、コロナウイルスで3年間途絶えてしまって、小学校の先生が誰も指導できなくなり、コーディネーターが地域に呼びかけたところ、小学校に行って教えていいよという人が出てきて、運動会に向けた民俗芸能

の活動ができた例がありました。あるいは、中学校でミシンの学習をする際、今はミシンがない家も多く、できない子どもが多いときに、先生が何人も見て回るのは大変だということで、ミシン学習をお手伝いいただける方を地域コーディネーターが募り、教科の授業にも入っていただいた例がありました。学校も教員の指導支援をしていただけるということで助かりますし、参加した地域住民の方も自分の生きがい、子どもたちのためになったとやりがいを感じていただけているので、学校と地域でウィンウィンな関係が生まれていると捉えておりました。簡単ではありますが、以上でございます。

(藤原会長)

照井委員をお願いします。

(照井委員)

6ページの表の数値が間違っていたということで、直っているので今回は問題ないと思いますが、もし、令和7年度の目標値を上回る実績値が出てきた場合、1年事業を実施してみて、実際に考えられる数字よりもよいのだから、最終的な7年度の目標値を直せるかどうかという検討があってもよかったですかと思えます。実績が予定以上であれば、最終的な7年度の目標値をどこの項目でも直していけるようになればよいと感じました。

(菅野教育部長)

ありがとうございます。基本的には、令和7年度にこうあるべきと目標値を最初に掲げておりましたので、変更するという想定はしておりません。あまりにもかけ離れた場合、見直さなければいけないとは考えておりますが、目標値を大きく上回った場合は、そのくらい成果があったということになるでしょうし、大きく下回った場合は、適切な事業を行えなかったという解釈になるかと思えます。ただ、今回、やはりコロナウイルスの影響が大きく、目標値に届かない指標がたくさんございましたが、今年度以降は徐々に以前の状態に戻ってくると思いますので、合わせて変更することはないかと思えます。まず、現在のところは、令和7年度の目標値は最初に決めたとおりに進めていきたいと思っております。

(照井委員)

コロナウイルスの影響でかなり数値が下がった部分もあるのですが、5月以降、第5類に移行してからも、6週続けてこの地区のコロナウイルス感染者が増えております。定点あたりの数字が10を超えると注意となっております、中部地区も10を超える範囲に入ってきています。その中で、もしよい数値が出ればかなり定着したということで、見込みがある数値に臨めるのではないかということを感じました。



(菅野教育部長)

委員がおっしゃったようにコロナウイルスがなくなったわけではなく、市内の学校や私たちの職場でも感染者が出ております。これから花巻まつりや花火などもあります、いろいろなイベントがある程度通常に近い又は通常どおりの形で行われておりますので、よい成果が出るようになればと期待しているところでございます。

(藤原会長)

関連してお話いたします。6ページ、2学校教育の充実「自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合」です。自己肯定感の項目かと思えます。通常は、小学校のときには、自分はよいところがあるとすらすらといえるのですが、年齢を重ねるにつれて下がってくる傾向にあります。令和4年度の結果は、小学校68%、中学校74%で、花巻市の場合は、逆になっています。これは非常に珍しい傾向だと思います。私も教育関係の資料をいろいろ見ておりますが、このようなことはないです。目標値は、小学校は68%から10ポイント上げて78%ですが、そういった背景もあって、全国的な方向、平均に近づけるために目標値を大幅に上げているのでしょうか。決め方をお聞きします。逆に、中学校が現在74%ですが、令和7年度には3ポイント下げる目標値です。現状値、実績値は過去のことかと思えますが、実績値が高すぎるというご判断なのか、令和7年度の目標値の設定について伺います。

(及川学校教育課長)

教育振興基本計画を立てるときに、令和元年度の現状値を基に、令和7年度の目標値を設定したと思えます。この設問は岩手県学習定着度状況調査の質問紙と、全国学力学習状況調査の質問紙にありますので、当然、県や全国の当時の数値等も鑑みて令和7年度の目標値を設定しております。現状値が高く出ているのはそのとおりですが、どの学年でも高く出ているわけではございません。令和4年度は高かったが令和3年度は低かった学年もありますので、どの学年も令和7年度の目標値に近づけていきたいと考えております。資料はお手元に準備できませんでしたが、今年度の全国学調では、小6は80.4%、中3も79.5%と高い結果でありましたので、ある程度成果が出てきているとは思っております。令和7年度の目標値は、計画策定時に設定しておりますので、修正は難しいかと思っておりますが、よい傾向を続けていければと思っております。自己肯定感を高める指導はなかなか難しいと思うのですが、例えば、子どもたちの挑戦心や達成感、あるいは規範意識、自己有用感等も関連すると思えますので、トータルで指導していきたいと思っております。回答にはなりません以上でございます。

(藤原会長)

資料はもってきておりませんが、アメリカ、中国、韓国等では、大体90%の子どもが自分にはよいところがあると回答します。日本人の控えめな国民性かなというところもあるのですが、それにしても花巻は控えめが多く出ているのかなという印象を持ちました。

ほかにご質問、ご意見ございませんか。坂本委員お願いいたします。

(坂本委員)

13ページ、3生涯学習の推進(1)自主的学習の推進、⑤読書活動推進事業に、読書おもいで帳の発行とございます。現在は児童生徒が対象ですが、大人もほしいという声がかかなりあがっておりますので、ぜひ予算をつけていただきたいというお願いでございました。

(市川生涯学習部長)

ご意見をいただいておりますので、検討しているところであります。ありがとうございます。

(藤原会長)

前向きな回答をいただきました。そのほか、いかがでしょうか。

(牛崎委員)

資料No.4です。令和4年度の不登校児童生徒の実態について説明がありました。全国・県平均と比べると、花巻市は低い水準であるということですが、小学生の不登校が増加していることは気になります。具体的に、不登校児童生徒に対するどのような対策を行っているかということ、それから、フリースクールのようなもので今認められているものはまなび学園の風の子ひろばくらいですよね。全国的には、民間でも塾でフリースクールを開いているところが出てきたということもありますので、花巻市の考えとして、これからどうしていくのかということがわかれば、教えていただければと思います。

(及川学校教育課長)

不登校児童生徒の問題は、非常に大きいと思っております。子どもたちが学びにアクセスできないことは非常に大きな問題ですので、当然、学校復帰を目指して支援するわけですが、学校に復帰できないとしても、何らかの形で学びにアクセスさせることは、子どもたちの社会的自立を目指す上で非常に重要なことだと思っております。教育委員会では、まなび学園内にある適応指導教室「風の子ひろば」で指導を行っておりますが、来られない子どももおります。また、市内を拠点に活動する「NPO法人はなのば」さんが昨年6月に開設した「ほめのばフリースクール」には、現在10名前後が通っていると伺っております。我々も情報交換しつつ、民間の教育施設や学校とも連携しながら、子どもたちの支援

をしてまいりたいと思っております。そのほか、教育委員会では、県の予算をいただき、スクールカウンセラーを各学校に配置してカウンセリングの充実を図っております。また、スクールソーシャルワーカーを教育委員会に3名配置し、学校、保護者支援を進めている状況であります。それから、未然に防ぐことも大事ですので、過去に欠席があった子どもたちの状況を学校に確認させておりますし、あるいは子どもたちが学校に楽しく通うことは非常に重要であると思っておりますので、魅力ある学校づくり、子どもたちの居場所づくり、児童生徒間の絆づくりを学校には頑張らせていただいております。今後は教育委員会、学校、民間教育施設等で連携しながら子どもたちの学びの場を多様な形で確保していくことが重要だと思っており、学びの場に出てこられない子どもについては、オンラインでの指導、支援も必要になってくると考えております。本年度からは、適応指導教室「風の子ひろば」にWi-Fi環境を整備し、タブレットを使ってAIドリル等に取り組む子どもも出始めております。

(藤原会長)

不登校が小学校で目立って増えているということでしたが、目盛りが違いますね。小学校は細かい目盛りになっています。コロナウイルスの影響もあるかと思っておりますが、中学校の方がむしろ増加率は高いと思っております。

そのほか、いかがでしょうか。

(なし)

(藤原会長)

「質疑なし」と認め、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。「第3期花巻市教育振興基本計画実施計画令和4年度主要事業の実施状況について」原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(なし)

(藤原会長)

「異議なし」と認め、「第3期花巻市教育振興基本計画実施計画令和4年度主要事業の実施状況について」は可決されました。

続きまして審議（２）「第３期花巻市教育振興基本計画実施計画（令和５年度）（案）について」を議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。

（菅野教育部長）

令和５年度実施計画（案）について説明させていただきます。新規、拡充した事業を中心に説明いたします。資料No. 8の２ページをご覧ください。

１子育て環境の充実について、大きな変更はございませんが、計画書に掲載していない部分について説明させていただきます。まず、子育て世帯の経済的負担軽減策ですが、令和５年度における新たな取組として、岩手県が行ういわて子育て応援保育料無償化事業費補助金と在宅育児支援金を活用し、市内保育施設を利用している３歳児未満で第２子以降となる児童の保育料無償化と、保育施設を利用していない、第２子以降３歳未満の在宅育児世帯に乳幼児１人につき月額１万円の補助を実施するほか、令和４年度まで施設利用世帯の所得に応じて半額又は全額を補助してきた、第３子以降の児童に対する副食費の支援について、所得の要件を撤廃し市単独で拡充して実施することとしてございます。また、これも掲載してございませんが、石鳥谷地域で進めております幼保連携型認定こども園、また、地域子育て支援センターの施設整備について市として支援を行っているほか、学童クラブについては、利用ニーズの高い桜台小学校区に、民間事業者が新たな施設整備を行っており、現在は施設が完成するまでの間、民間事業者に対して旧ポラン保育園の場所を臨時開設場所として提供するなど支援を行っているところです。また、別の学区でも、民間事業者が、来年度から学童クラブを開設したいとのことで現在進めており、放課後の安全安心な居場所作りの推進ということで期待されているところです。

６ページをご覧ください。２学校教育の実施について、(1)学力の向上、①学力向上推進事業では、各校のICT活用を支援するため、ICT推進員を増員して配置してございます。

７ページ(4)個に応じた支援体制の充実、①特別支援事業では、特別支援教育を担当する教員や支援を希望する保護者に対する巡回相談を行う教育相談員と、児童生徒への支援を行うふれあい共育推進員をそれぞれ増員して、きめ細かな支援の充実を進めております。

８ページ(6)教育環境の充実では、３つの新規事業を追加してございます。⑨地域部活動推進事業は、休日の部活動の地域移行を推進するためのコーディネーターを配置し、環境整備を図るものでございます。⑩学校図書館支援事業については、学校図書館の充実を図るため、去年まで配置していなかった学校をモデル校として学校図書館司書を配置するものでございます。⑪学校安全特別対策事業については、小学生が利用するスクールバスへの置き去り事故を防止する安全装置の装備を行うものでございます。

なお、子育ての分野になりますが、民間の幼児教育・保育施設の送迎バスへの装備に対しても補助を行ってございます。簡単でございますが、以上、学校教育の充実について説明を終わります。生涯学習関係につきましては、生涯学習部からお願いいたします。

(市川生涯学習部長)

9ページ、3生涯学習の推進です。(1)自主的学習の推進につきましては、特に新しい事業はございません。①生涯学習講座開催事業、生涯学習講座等につきましては、現在、コロナ禍前と同じような状況で実施しております。④生涯学習施設整備事業では、生涯学習生涯施設、まなび学園等の改修、図書館の改修など、計画的に行っているところでございます。(3)国際化の推進につきましては、コロナ禍前と同様に直接行き来するような事業を実施しており、国際姉妹都市では、ホットスプリングス市と30周年を迎えることになり、記念事業を行いたいということで、双方行き来することを予定しております。③国内友好都市交流推進事業につきましても、コロナ禍で実施できていなかったキャンプを実施したところでもあります。

11ページ、4スポーツの振興です。新規事業はありませんが、(1)生涯スポーツの推進③はなまきベースボールフェスタは、コロナ禍前に2回実施いたしました。プロ野球の公式戦において花巻デーを設定していただき、本市ゆかりの選手がいる埼玉西武ライオンズの公式戦観戦のツアーを組んで応援しに行く、また、その選手を呼んで野球教室をするという事業でございます。今年度は3回目ということで実施しております。また、(3)大規模スポーツ大会の開催について、東北総合体育大会の6種目を本市で開催する予定でございます。7月から8月に実施するものであります。

12ページ、5芸術文化の振興です。主に⑦文化会館施設改修事業、文化会館の改修であります。文化会館大ホールの音響の改修のため、使用できない状況であります。(2)先人の顕彰です。各記念館等ではコロナウイルスの影響でできなかったものもありましたが、ほぼ例年どおり企画展を実施しておりますし、宮沢賢治の没後90年ということで関連事業を実施しております。以上です。

(菅野教育部長)

14ページ、(3)文化財の保護と活用についてです。特に新規、拡充の事業はございませんが、①文化財保護事業につきましては、文化財の保護と活用に関するマスタープランである花巻市文化財保存活用地域計画の策定を進めてまいりましたが、今年度計画策定を終了し、文化庁の認定を受ける予定でございます。また、国指定天然記念物花輪堤ハナショウブ群落について、花輪堤ハナショウブ群落保存活用計画の策定を続け、今年度策定を終了

し、文化庁の認定を受ける予定でございます。③博物館の展示活動事業では、「日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家 かがくいひろしの世界展」として、絵本「だるまさん」シリーズが人気のある作家であります、かがくいひろしの企画展を、市内の特別支援学校、特別支援学級の児童生徒とも連携しながら、9月30日から開催する予定ですのでご紹介させていただきます。⑤市史編さん事業は、長いスパンの事業になりますが、今年度は6月末に第1回市史編さん委員会を開催し、編さんの基本方針やスケジュールについて検討を進めており、今月中に2回目の委員会を開催することになってございます。

(4)民族芸能の伝承につきましても、新規、拡充する事業はございませんが、コロナウイルスの影響を受けずに観賞会等が開催できるということで、発表の場が広がると期待しているところでございます。以上で令和5年度の実施計画(案)について説明を終わります。

(藤原会長)

只今事務局から説明をいただきました。ご質問、ご意見はございますか。佐藤委員。

(佐藤委員)

花巻市体育協会選出の佐藤でございます。まず、スポーツに関してです。11ページ(3)大規模スポーツ大会の開催とあります。合宿や誘致でコンベンションをやっていますが、使いづらい部分がありなかなか来ていただけないことがありますので、もう少し使いやすいものに変えていただければと思います。また、スポーツ施設の整備事業について、資料No.7の25ページにスポーツ施設が出ておりますが、この大部分を花巻市体育協会が指定管理で委託を受けております。平成18年の大合併のときに多くの施設が花巻市のものとなり、整備されたところもありますが、整備されずに吸収合併になってしまったところもあり、施設が古くなって傷んでいるところがたくさんあります。地域スポーツの拠点になっており、簡単に廃止ということにはならないと思いますので、整備費用のご検討をお願いしたいと思います。のちのち、古くなって改修も難しいとなれば、取り壊しも考えていかなければならないかなと私は思っておりますので、予算とその検討についてお知恵を拝借できればと思います。

それから、学習の定着についてです。私も学校の教員上がりで、市内の某校以外の高校には全部勤めました。数学などが県・全国に比べて劣っているということでしたが、具体的に結果が出てきたときに、皆さんがどのような指導をしているのかということです。例えば九九ができていないとか文章題ができていないとか、詳細に結果は出てきているわけです。具体的にその学校に指導しているのかどうか。弱いところを例えば朝10分間算数の

授業の前にやろうとか、具体的なことをやっているのかということです。そういうものをやっていかなければ改善されないと私は思います。高校だと、朝10分、授業開始後10分はこのことについてやりなさいなどと指導する校長もいますが、小中学校ではそのような部分があるのかお伺いします。

(市川生涯学習部長)

合宿の誘致につきましては、コンベンションビューローなど、体育協会にもご協力いただいて誘致しております。市民や県民の大会と重なる状況の際は施設利用できないということで、平日に合宿していただいております、苦勞していただいているところであります。新しい大学や企業を誘致するのはなかなか難しい中で、今来ていただいているチームについては、引き続き来年も参加していただけるように支援していると捉えております。花巻市の施設は非常によいと言われております。交通も便利ですし、特にボートは日本代表が毎年合宿しております。また、施設だけでなく職員も非常によいと言われておりますので、そのようなことを注視して、しっかり支援していきたいと思っております。

施設につきましては、ご存知のとおりスポーツ施設に限らず、文化会館、まなび学園、石鳥谷生涯学習会館など、大規模な施設が多くあります。それを改修するのは実はとても大変で、計画的に毎年何億という金額で、できる範囲でやってきているところです。今のところ、どこの施設を閉じるということは考えておらず、今の施設を維持していく改修計画になっております。いずれ人口が減って、維持が難しくなることを懸念しており、施設を一緒にできる部分は一緒にしながら検討していかなければならないとは捉えております。予算も多いわけではないですが、今のところは今ある施設を計画的に修繕しているという状況ですので、ご理解いただきたいと思っております。

(佐藤委員)

先日全施設を周って見てきましたが、雨漏りが非常に多いですので、部分的なものでも修理していただければと思います。新しく施設を作るとはなかなか難しい財政だと思えますので、最終的には解体などになってしまうとは思いますが、人口が減る中でいろいろと相談しながらやっていきたいと思っております。ありがとうございます。

(藤原会長)

続きまして学力向上についてお願いします。

(及川学校教育課長)

学力向上につきましては、教育委員会では学力向上アクションプランを立てて取り組んでおります。各学校におきましても、先ほどご指摘いただいたような具体的な方策を定め

たアクションプランを毎年度立て、具体的にどういったことをやるかを教育委員会に提出していただき、教育委員会でも指導、助言しているところでございます。また、教育委員会では、中学校の数学、英語について、以前教育センターで学力向上のために作成されたGアップシートという非常によい問題集がありますので、市で全生徒分を印刷、製本し配布してございます。授業での復習や家庭学習に活用するよう各学校には指導しております。なかなか成果が出てこないことは非常に心苦しいですが、地道に取り組んでいるところでもあります。データを見ればわかるのはそのとおりですので、言葉は適切ではないかもしれませんが、なかなか学習指導の成果が上がらず困っている教員については、個別に指導主事又は学習指導専門員が学校を訪問し、授業参観や授業力向上に向けた指導、助言を行っているところでございます。以上でございます。

(藤原会長)

かつて学力向上班で長い間大活躍なさった須川委員から、岩手県の学力についてお願いします。

(須川委員)

花巻北高校長の須川と申します。以前、県の学力向上を担当しており、県内の全市町村を周って状況等把握させていただいたところです。取り組みばすぐに成果が上がるなら誰も苦労しないのはそのとおりですが、例えば、今年は少し落ちましたが、秋田県がよくやっているのは、例えば、ほかの市町村と比べて花巻市はこの部分が優れているとか、よいところは積極的にほめることです。課題だけ言うと生徒も先生方も顔が下がってしまうので、こんなよいところがあるよ、それと一緒にこれもやってみようと思っていくのが最初かと思います。市教委の皆さんや先生方が一生懸命やられているのは重々承知なのですが、結果がなかなか変わらないことを考えたときに、同じことをやっても結果は変わらないと思います。例えば一つの視点として、どうしても市町村では県平均と比べてしまうのですが、生徒たちが最後的に進学するときには全国と勝負することになりますので、市教委もそうだと思いますが、先生方、生徒たちも全国と比べて支援を行うことも必要かと思えます。高校では全国と比較するのですが、小中ではなかなかそうはいかないと思えます。県平均に到達したからいいとか、県平均からどのくらい低いかということもそのとおりですが、全国でこのような傾向があるということもうまく織り込みながらやっていくとよいかと思えます。小中高で連携しないと花巻の子どもたちが望む進路は達成できないと思えます。高校も本当に頑張りますので、幼小中highに関連して何かできることがありましたら、遠慮なくお話しいただければ、一緒に頑張りたいと思えます。



(藤原会長)

先ほど出ましたGアップシートは、15年前教育センターで作りはじめて、改訂に改訂を重ねたものです。製本して活用していただけているということで、大変嬉しく思います。来年度はよい結果が出るよう期待しております。どうぞよろしく願いいたします。打田委員。

(打田委員)

学力についてです。私たちは子どもたちに絵本の読み聞かせをしているのですが、今の子どもたちは絵本の中身を理解することがなかなかできません。園でもそうですが、学校に行くと、相手が何を言っているか、学習するときに何を問われているのか理解できない、そこまで力がついていないということを強く感じます。たくさん本を読んであげれば、一年生になったときにいろいろなことを学ぶ上で役に立つのではないかと思い、今子どもたちに絵本の読み聞かせをよくしています。SDGsの内容が取り上げられている「もったいないばあさん」という絵本も読み聞かせるなど、SDGsにも触れさせながら、どのような内容が問われているのか、何をしなければならないのか、子どもたちと話をしております。そうするとコミュニケーション能力もつきます。そうすれば、いじめや不登校、自分は何をしなければならないかを考えることなどにつながると思います。今上映中の映画「君たちはどう生きるか」も、おそらくそのような中身を言っているのだと思います。私たちが幼少期から本を大切に、子どもたちを学校に上げていきたいと思っております。

(藤原会長)

ありがとうございました。そのほか、いかがでしょうか。

(なし)

(藤原会長)

「質疑なし」と認め、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。第3期花巻市教育振興基本計画実施計画（令和5年度）（案）について」を原案のとおり決することにご異議ありませんか。

(なし)

(藤原会長)

「異議なし」と認め、「第3期花巻市教育振興基本計画実施計画（令和5年度）（案）」については可決されました。

以上で議事を終了いたします。2時間にわたり熱心なご質問、ご意見をいただきましてありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

(及川教育企画課長)

審議の進行大変ありがとうございました。次第7、その他であります、委員の方から何かございませんか。

(高橋委員)

花巻市教育振興運動推進協議会の高橋と申します。この4月から会長を仰せつかりました。全体を通して質問です。頂戴した資料は、委員の中でクローズしなければならないものなのか、オープンにしてよいものなのかお尋ねします。私はPTA会長や西南学区の教育振興協議会の会長も務めており、子どもの人数の変移や学調の結果、どの教科がよいとか悪いとかいうお話をちらほら聞くことはありますが、資料の形で見るのがなかなかなくて、公にしてよいものなのかお尋ねしたいということが一つです。

それから、子育てしやすいまちだと感じる市民の割合について、令和元年度の64%から令和4年度は51%まで下がったということです。下がった原因はそれぞれあるかと思うのですが、地域ごとに数値を捉えているのでしょうか。どの代表の方がその数字をもらうのかよくわからないところですが、例えばコミュニティ会長が受け取るものなのでしょうか。各コミュニティの数字が、こちらのコミュニティでは高いけれどもこちらのコミュニティでは低いとか、どんな取組をすることによって上がり下がりがあったのかという情報が、受け取るべき立場の人が受け取れば、具体的な活動に落とし込めるのではないかと思います。西南学区では、コミュニティ・スクールがようやく始まりつつありますが、そのような場に活動の内容やよい事例等が情報としてもらえれば非常に助かると思えました。

(菅野教育部長)

会議の結果等については公表いたします。大きなところは公表になりますので問題ございませんが、報告事項でお話いたしました資料2の学習定着度状況調査について、細かい内容までは取扱注意ということで、この場だけの資料とさせていただきます。同じく資料3につきましても、内部資料でありますので、大まかな状況だけ捉えていただき、資料は委員の中で取り扱いいただくようお願いしたいと思います。

それから、成果指標に関して、子育ての部分については、市民アンケートの結果に基づいておりますので、大きな結果自体は公表しております。コミュニティ地区ごとに結果は出せるとは思いますが、成果指標とはしていない部分、アンケート結果やほかの指標等がございますので、結果をコミュニティ地区にお返しして、何かをやっていただくことは想定しておりません。ですので、今地区ごとに成果指標を確認してそれをお返しすることは考えていないところでございます。実際に数字をコミュニティ会議ごとに分けても、分析はできるかと思いますが、数字によってコミュニティ会議に取り組んでいただくというよりは、数字に関わらず子どもを育てやすいまちに向けて取り組んでいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(高橋委員)

わかりました。

(及川学校教育課長)

補足いたします。お渡しした資料は、内部資料ということでお願いしたいと思えます。県の学力学習定着度状況調査の結果と全国学力学習状況調査の結果は、毎年度データを市教育委員会のホームページに掲載してございますので、ご活用いただければと思います。

(佐藤教育長)

児童生徒数の推移については各PTA、各コミュニティにも送っておりますので、お使いいただいても構わないと思えます。

(高橋委員)

ありがとうございます。

(及川教育企画課長)

ほかに何かございますか。

(牛崎委員)

要望です。教員の働き方改革についてです。十分対策は進んでいると思えますし、ここにいらっしゃる立派な先生たちを前にお話しするのは本当におこがましいのですが、親族が教員をしておりましたが、激務に耐えきれず体を壊して、年度途中にも関わらず、つい最近中途退職してしまいました。職場の皆さんには非常にご迷惑をおかけしたと思えます。ただ、一番は子どもたちに関わりたかったという気持ちだったようですが、いろいろな調査や報告書の提出を求められたり、外国語やICT化等の業務が入ってきたりして、やることだけがが増えて激務で大変だったようです。学校によって体制は様々だと思えますが、今までやってきたものを全てやり続けるのではなくて、新しいものを入れるなら、古

いものは一つずつカットするような形で、このような立派な計画も、教職員が元気に働けないと実施できないと思いますので、働き方改革の要望をしたいと思います。よろしくお願いたします。

(佐藤教育長)

牛崎委員から大変貴重なご意見をいただきました。多忙化解消については、花巻市でも、平成29年度から多忙化解消委員会で、全部で33項目について取り組んでおります。一方、委員がおっしゃったとおり、実際には授業等が増えており、学校でも対応に非常に苦慮されていることも、私どもで把握しております。ただ、先生方の健康あつての学校ということはそのとおりでございます。今いただいたご意見をもとにしながらさらに実態を把握してまいりたいと思います。先ほどご説明しましたが、小学校等で子どもたちの生活自立、体験活動の不足、コミュニケーション能力の不足などで先生方が困っていらっしゃるということで、例えば、ふれあい共育推進員を今年度は5名増やしました。教育相談員も、従来5名だったものを7名に、あるいは、ICTについても、先生方は一生懸命やっていますが、2人のICT支援員を今年度は4名体制にして、できるだけ学校を支援していこうということで進めております。

先ほどお話しましたように、先生方の健康が第一でございますので、これからも校長先生方と現場の状況をしっかり把握しながら、先生方が気持ちよく健康で働けるような環境整備を頑張ってまいりたいと思います。何かございましたら、様々な情報提供をいただければありがたいと思います。大変貴重なご意見ありがとうございます。

(及川教育企画課長)

ありがとうございました。そのほか、ございませんか。

(なし)

(及川教育企画課長)

ないようですので、佐藤教育長から閉会の挨拶を申し上げます。

(佐藤教育長)

限られた時間でしたが、大変広範な内容でございました。特に、新しい事業に関して、口頭での説明だけではなかなかわからないところがありますので、私どもの資料提示について、もう少し具体的な資料があればと今回反省したところであります。

教育振興審議会の中でご意見をいただくことが、私どもにとって大変重要な機会ではありますが、今日は大変有用なご意見、ご質問等をいただきましてありがとうございます。会が終わりましたも、話題になったこと、あるいは後から気がついたこととなどございましたら、遠慮なく担当にお問い合わせいただければありがたいと思います。今日は貴重な時間、十分にご審議をしていただき本当にありがとうございました。

(及川教育企画課長)

以上をもちまして令和5年度第1回花巻市教育振興審議会を終了いたします。ありがとうございました。